



「語り部」を世界共通語に

淡路で全国シンポ

自然災害の経験や教訓を語り合う「全国被災地語り部シンポジウム in 西日本」（神戸新聞社など後援）が26日、淡路市の淡路夢舞台国際会議場で始まった。初日は阪神・淡路大震災や東日本大震災、熊本地震などの被災地から語り部らが集い、講演やパネル討論で課題を共有。次なる災害を見据えた記憶継承のあり方を考えた。

（31面に関連記事）

阪神・淡路、東日本、熊本から参加

災害の教訓共有

東日本の被災地・宮城県南三陸町で昨年3月に初開催。同町の復興（5）は「語ることで復興の記憶を公衆などでつくる実行委員会が毎年の開催を決め、2回目の会合に約430人が参加した。

淡路市と南三陸町、熊本県益城町の行政担当者ら3人が復興へのあゆみなどを紹介。続くパネル討論では、各地で語り部活動などに携わる3人が被災体験をいかに次代に伝えるかを議論した。南三陸

町の「南三陸ホテル観洋」女将の阿部憲子さん（55）は「語ることで交流が生まれ、前を向ける」と力を込め、「語り部」を世界の共通語にしたい」と訴えた。

防災を学ぶ舞子高校（神戸市垂水区）や淡路高校（淡路市）などの生徒も意見交換した。最終日の27日は想定される南海トラフ巨大地震などに向けて提言をまとめるほか、野島新層や神戸市長田区を巡り、阪神・淡路大震災の復興過程を確認する「語り部バス」を運行する。（長江優咲）

2017/2/27【朝日新聞】
「語り部」を世界共通語に